CHDサーベイランス 2016

調査結果

日本小児循環器学会 理事長

坂本 喜三郎 小山 耕太郎 学術委員会 委員長

データベース部会 部会長

山岸 敬幸 (文責)

心血管疾患の遺伝子疫学委員会 委員長

潤 前田 古谷 喜幸

小児心臓病医療・社会・ 保険制度の一層の充実のた め、国内の先天性心疾患の 発生動向の把握は必須です が、全国的にまとめられた データはありませんでした。 そこで日本小児循環器学会 では数年間にわたる議論を 経て、「新規発生先天性心疾 患サーベイランス」(2015 年~)と「希少疾患サーベ イランス」(2005年~)を 同時に実施しています。こ の度、2016年(平成28年) の調査結果がまとまりまし たので、報告させていただ きます。

先天性心疾患 (2016.1.1 ~ 2016.12.31)

| | 発症数 | 頻度(%) | 順位 |
|----------------------|-------|-------|----|
| 心室中隔欠損症 | 4797 | 34.2 | 1 |
| 動脈管開存症 | 1448 | 10.3 | 3 |
| 心房中隔欠損症 | 2720 | 19.4 | 2 |
| (完全型または不完全型) 房室中隔欠損症 | 383 | 2.7 | |
| 肺動脈(弁)狭窄症 | 1175 | 8.4 | 4 |
| 大動脈(弁)狭窄症 | 249 | 1.8 | |
| 大動脈縮窄症 | 319 | 2.3 | |
| 大動脈弓離断症 | 88 | 0.6 | |
| 完全大血管転位症 | 246 | 1.8 | |
| ファロー四徴症(肺動脈閉鎖例を含む) | 608 | 4.3 | 5 |
| 総動脈幹症 | 46 | 0.3 | |
| 左心低形成症候群 | 128 | 0.9 | |
| 三尖弁閉鎖症 | 85 | 0.6 | |
| 単心室症 | 217 | 1.5 | |
| 純型肺動脈閉鎖症 | 77 | 0.5 | |
| 両大血管右室起始症 | 328 | 2.3 | |
| 総肺静脈還流異常症 | 160 | 1.1 | |
| 修正大血管転位症 | 64 | 0.5 | |
| エプスタイン病 | 89 | 0.6 | |
| その他先天性心疾患 | 798 | 5.7 | |
| 計 | 14025 | 100 | |

2018 3 29 時点 135 施設回答 /135 施設

2016年出生数:976,978

CHD発生率 1.44 %

希少疾患 (2016.1.1 ~ 2016.12.31)

事務長

| | • |
|-----------------------|----------|
| | 発症数 |
| 拡張型心筋症 | 63 |
| 肥大型心筋症 | 80 |
| 拘束型心筋症 | 9 |
| ミトコンドリア心筋症 | 7 |
| 不整脈源性右室心筋症 | 9 |
| 左室心筋緻密化障害 | 50 |
| 心内膜線維弾性症 | 2 |
| ポンペ病 | 3 |
| 急性心筋炎 | 77 |
| 心臓腫瘍 | 64 |
| 特発性肺動脈性肺高血圧症 | 35 |
| 心膜欠損 | 4 |
| リウマチ熱 | 5 |
| ブランド・ホワイト・ガーランド病 | 5 20 |
| 先天性完全房室ブロック | 25 |
| 収縮性心膜炎 | 1 |
| ダウン症の川崎病 | 4 |
| 心室憩室 | 8 |
| 肺動静脈瘻 | 15 |
| インフルエンザ心筋炎 | 4 |
| 乳児僧帽弁腱索断裂 | 14 |
| ダノン病 | 0 |
| ファブリー病 | 8 |
| フォンタン術後鋳型気管支炎 | 3 |
| カテコラミン誘発多形性心室頻拍 | 8 |
| 計 | 518 |
| 2010 2 20 時占 125 体認同效 | /1つに #☆≕ |

2018.3.29 時点 135 施設回答 /135 施設

調査対象期間

平成28年1月1日~12月31日

調査対象症例

上記対象期間中に、新規に発症または診断した症例全例。 すでに他院で診断され、対象期間中に初めて修練施設・修練 施設群内修練施設に紹介・受診された症例を含む。ただし、 症例登録の重複を避けるため、他の修練施設・修練施設群内 修練施設からの紹介症例は含まない。

調査方法

1年間の症例数および疾患内訳を調査対象とする。

- 1. 「新規発生先天性心疾患サーベイランス」: 先天性心疾 患の主診断名として19疾患名および「その他の先天 性心疾患」の計20疾患名のいずれかに診断し、症例 数を報告。
- 2. 「希少疾患サーベイランス」: 小児循環器領域の25希 少疾患について症例数を報告。

調査結果

修練施設・修練施設群内修練施設全135施設よりご回答いただき、 回答率は100%でした。

新規発生先天性心疾患サーベイランスでは、総計14,025症例が報 告されました。厚労省の統計では、我が国における当該年度の出生数 は976,978と報告されており、この2つの数字から単純にCHDの発 生率を算出すると1.44%となり、2015年調査(1.41%)と同等で した。実際には調査対象施設に受診しなかった症例もあると考えられ ますが、この数字を見る限り、大半の症例が報告され、我が国の現状 を反映した調査となったことがうかがわれました。疾患内訳では、従 来の報告通り心室中隔欠損症、心房中隔欠損症、動脈管開存症、肺動 脈(弁)狭窄症、ファロー四徴症が上位5位を占めました。

希少疾患サーベイランスでは、例年通り肥大型心筋症、拡張型心筋 症、左室緻密化障害、および心筋炎はコンスタントに報告されていま す。新たな治療薬に関心が高まる心臓腫瘍、特発性肺動脈性肺高血圧 症の報告も目立っています。

本サーベイランスは、我が国における先天性心疾患疾病構造・人口 動態を把握するための学会主導の調査として、将来につながる大変有 用な結果を得ることに貢献しております。これもお忙しい中、ご回答 いただきました修練施設・修練施設群内修練施設の皆様のご協力の賜 です。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。今後も継続的にサー ベイランスにご協力いただければ幸いに存じます。